統計アラカルト

熊本の統計情報　　令和３年（2021 年）11 月30日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

随時、色々な統計に関する話題・データを紹介します。

「令和3年社会生活基本調査」を実施しました！

国、県では、令和3年10月20日（水）を調査日として、「令和3年社会生活基本調査」を実施しました。実施に当たり、調査にご協力いただいた皆様方に深く感謝を申し上げます。

この調査は、国が実施する統計調査のうち統計法（平成19年法律第53号）において特に重要なものとされる「基幹統計調査」として、昭和51年以降5年ごとに実施しており、今回が10回目の調査となります。熊本県内では、34市町村、1704世帯の10歳以上の世帯員を対象として実施しました。

調査の目的は、わたしたちが1日にどのくらいの時間を、仕事、家事、地域での活動に費やしているか、また、過去1年間に、スポーツ、趣味・娯楽、ボランティア活動など、どのような活動を行ったかを調査し、国民の社会生活の実態を明らかにすることです。

調査結果は、各種行政施策の策定時（仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進、男女共同参画社会の形成等）に活用されます。また、民間、大学、研究所においてもさまざまな用途で利用されているところです。

本調査の調査項目は多岐にわたり、「世帯員に関する設問」（氏名・年齢・教育・健康状況・介護の状況）から、「仕事に関する設問」（就労状況）、「学習・自己啓発、ボランティア活動に関する設問」（記入者の自主的な活動状況）、そして「趣味・娯楽」（自由時間）に関する項目があり、さらに、「指定された2日間の一日の生活時間の配分」においては、「睡眠」、「食事」、「家事」、「休養・くつろぎ」などに1日の行動に費やした時間を30分単位で記入します。これにより、わたしたちがどの行動にどれくらいの時間を費やしたのかがわかります。

さらに、設問の中に「テレワーク」があり、新型コロナ感染症の感染拡大により、どれくらいの人たちがテレワークを行っていたかを把握できる調査でもあります。

なお、調査結果は、令和4年9月頃と12月頃の2回に分けて公表される予定です。

それでは、これまでに実施された調査でどのような結果が出ているのでしょうか。統計局が「都道府県ランキング」として、特徴的な項目について、都道府県ごとの順位をまとめたものが公表されていますので、その一部をご紹介します。

「社会生活基本調査から分かる都道府県ランキング」（総務省統計局）

	平成23年（2011 年）			平成28年（2016 年）		
	全国順位	都道府県	時間.分	全国順位	都道府県	時間.分
（1）睡眠時間	1位	秋田県	8.02	1位	秋田県	8.02
	9位	**熊本県**	**7.51**	**19位**	**熊本県**	**7.44**
	47 位	神奈川県	7.31	47位	埼玉県	7.31
（2）1日当たりの通勤・通学時間	1 位	神奈川県	1.40	1位	神奈川県	1.45
	31位	**熊本県**	**0.57**	**26位**	**熊本県**	**1.03**
	47位	宮崎県	0.50	47位	大分県	0.57
（3）1日当たりの就業時間	1位	鹿児島県	6.25	**1位**	**熊本県**	**6.26**
	13位	**熊本県**	**6.10**	47位	東京都	5.39
	46位	三重県 愛媛県	5.47			
（4）平日における平均帰宅時間	1位	徳島県	18:02	1位	高知県	18:09
	23位	**熊本県**	**18:36**	**23位**	**熊本県**	**18:37**
	47位	東京都	19:45	47位	神奈川県	19:16
（5）一日当たりのテレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間	1位	北海道	2.47	1位	北海道	2.38
	21位	**熊本県**	**2.30**	**17位**	**熊本県**	**2.23**
	47位	東京都	2.10	47位	東京都	1.55
（6）平日における平均就寝時刻	1位	東京都	23:41	1位	京都府	23:34
	14位	**熊本県**	**23:07**	**24位**	**熊本県**	**23:02**
	46位	秋田県	22:35	47位	秋田県	22:33

（1）1日当たりの睡眠時間（10歳以上、土日を含む週全体の平均）
（2）1 日当たりの通勤・通学時間（10歳以上の「通勤・通学」をしている人、平日の平均）
（3）一日当たりの就業時間（1日当たりの仕事時間、15歳以上の有業者、土日を含む週全体の平均）
（4）平日における平均帰宅時間（15歳以上の男女の平日における平均帰宅時刻）
（5）一日当たりのテレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間（10歳以上、土日を含む週全体の平均）
（6）平日における平均就寝時刻（10歳以上、平日における平均就寝時刻）

上記のように、平成23年と28年の本県の数字を比較すると、（1）睡眠時間」は7分減少、（2）通勤・通学時間は6分増加、（3）一日当たりの就業時間は16分の増加、（4）平日における平均帰宅時間は1分遅くなり、（5）テレビ・ラジオ等の時間は7分減少、そして（6）平日における平均就寝時刻は5分早まっています。

（3）一日当たりの就業時間は、平成23年が全国13位であったのが、平成28年は全国1位となりました。

さて、この調査は各国でも同様の調査が行われており、国際比較ができるようになっています。そこで、フランスと日本の結果の表を比べてみましょう。どのような違いが出ているでしょうか。

調査の実施年は、フランスは2009年～2010年で、日本が平成28年（2016年）です。また、調査客体数はフランス（海外県、海外領土を除く本土）が 11,000 世帯で、日本が 88, 000 世帯です。

一日の主な生活時間の時間の違い（時間.分）

フランス（2009年～10年）	
睡眠	8.30
身の回りの用事	1.02
食事	2.13
仕事	2.27
通勤・通学	0.24
学業	0.24
家事・料理・洗濯・買い物	2.15
育児・介護	0.23
日曜大工	0.14
庭仕事・ペットの世話	0.18
テレビ	2.06
読書	0.18
散歩	0.17
ゲーム、インターネット	0.33
会話・電話・メール	0.19
スポーツ	0.09
交際・付き合い	0.29

日本（2016年）	
睡眠	7.40
身の回りの用事	1.22
食事	1.40
仕事	3.33
通勤・通学	0.34
学業	0.42
家事	1.23
介護・看護	0.04
育児	0.15
買い物	0.26
移動（通勤・通学を除く）	0.29
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	2.15
休養・くつろぎ	1.37
学習・自己啓発・訓練（学業以外）	0.13
趣味・語学	0.47
スポーツ	0.14
ボランティア活動・社会参加活動	0.04
交際・付き合い	0.17

（出典）日本：総務省統計局公表資料
「平成28年社会生活基本調査」 ―生活時間に関する結果―
対象：10歳以上、週全体平均
フランス：INSEE（国立統計経済研究所）公表資料
« Enquête Emploi du temps 2009-2010 »
対象：15歳以上、週全体平均、フランス本土在住者

両国で発表されている項目をそのまま掲載しましたので、各項目を構成する項目が異なっているため単純比較が困難な場合がありますが、例えば基本的な項目である「睡眠」や「食事」を見てみると、フランス人は日本人よりも約 50 分睡眠時間が長く、そして、約30分食事に多く時間をかけていることがわかります。統計表を細かく見て行けば、それぞれの国民の生活様式の類似点や相違点が把握できます。

令和3年調査では、どのような結果が出るのでしょうか。新型コロナウイルス感染症により在宅時間が長くなる傾向にある期間に実施されたため、国民の日常生活にどのような影響を与えたのか、その結果は大いに注目されるものとなりそうです。

問合せ先：熊本県企画振興部統計調査課　総務資料班
〒862-8570　熊本市中央区水前寺 6-18-1
電話：096-333-2174／Fax：096-384-7544／
Mail：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp